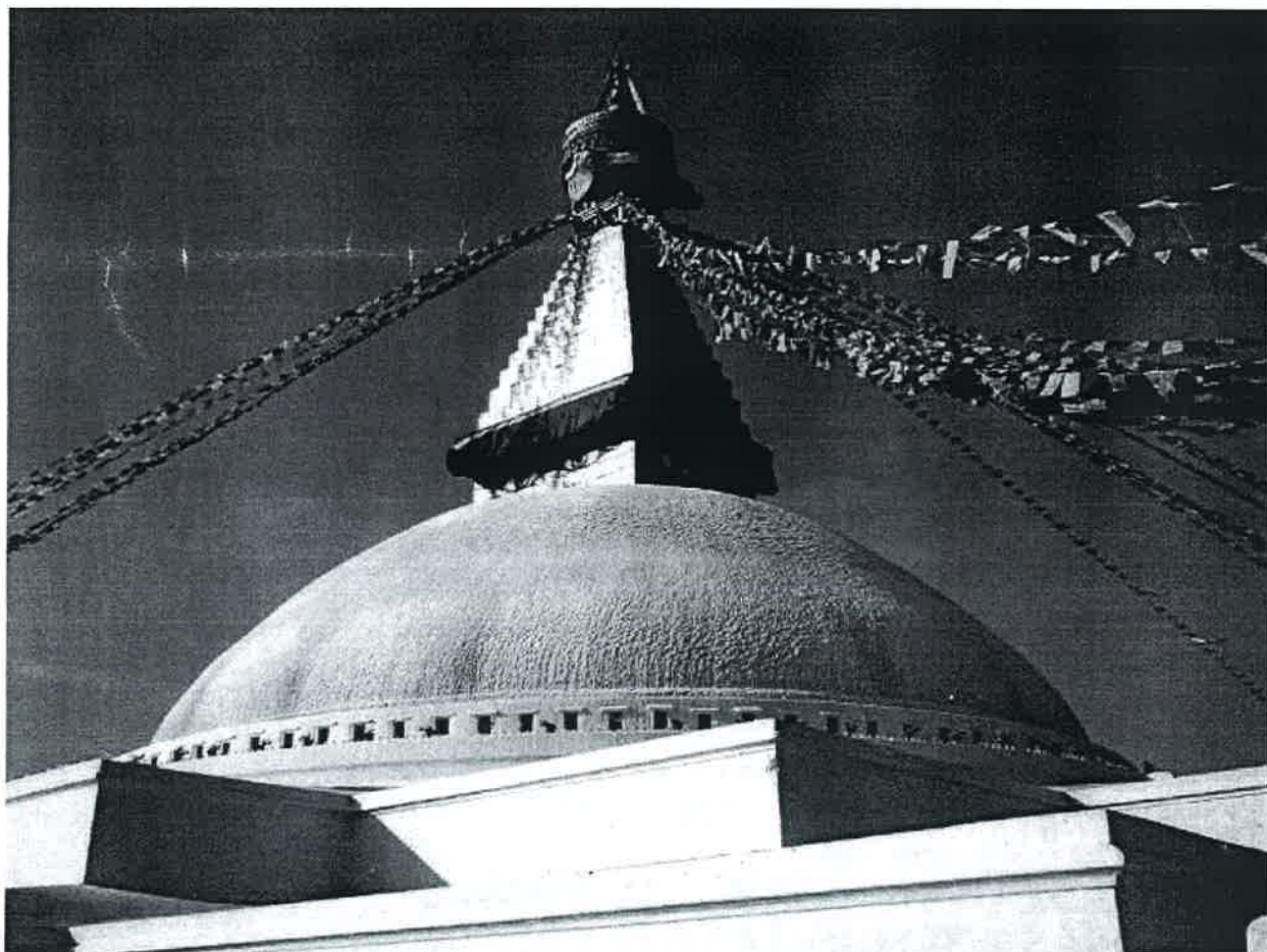


# コスト・ラムロ कस्तौ राम्री

(すばらしい)

2014年9月発行



## 目次

巻頭言 .....	1
祝辞 (Congratulation) .....	2
「ホームステイ事業」の実施について .....	3
「2014年度索道技術支援プロジェクト」について .....	5
ネパール訪問 (トレッキング) 計画について .....	6
ブジュン村新営20kw小型水力発電施設 (シャンカール氏寄稿文) .....	7
2011・索道完成式典終了後、村人へのインタビュー結果 .....	10
在徳ネパーリィ (カッカ夫妻) からのメッセージ .....	12
カレンダーの作成について .....	13

## 巻 頭 言

本年4月の総会において会長に就任いたしました谷口です。

私とネパールとの関わりは、1979年の春、大学のワンダーフォーゲル部の合宿として、ネパール・インドを35日間旅行したのが最初です。そこで大きなカルチャー・ショックを受け、将来は都会であくせく働くのではなく、「ゆったりと自然に」過ごしたいという思いで、海の方から徳島県に就職いたしました。

10年後の1989年の冬には、県内の山仲間とともに、アイランド・ピーク(6160m)に登る機会を得たことなどもあり、協会設立当初の1996年より理事として協会運営に参画。1997年11月のブジュン村での小型水力発電所の起工式に参加した時、ブジュン村から見上げる山々へ登りたいという思いを抱き、2009年のブジュン村点灯10周年行事として、ブジュン村から奥地の山へのトレッキングを行うなど、山登りを中心とした活動を行ってきたところです。

この間、会運営上様々な問題が生じましたが、電気のない山村に電灯を灯したいという思いによる「小型水力発電所」や、農作物等の運搬作業の軽減のための「索道」の建設等、これまで苦労してきたことが「実感」あるいは「想像」できる徳島の人々の支援や力により、前へ進んできたとは確かです。

近年、ネパールにおいても道路の建設は進んでますが、我々が進めている「索道」は、山岳地域の人々の生活の改善に役立つものとして、大いに期待されているところです。

そのため、当会の活動の大きな柱として、JICA(国際協力機構)の事業を活用した「索道技術の移転」を、会員等の技術者の協力により進めるとともに、近年手薄となっていたネパールの人々のみならず、会員相互といったソフト面での交流を深めてまいりたいと考えておりますので、御支援・御協力のほどよろしくお願いいたします。

Rf.N.16/2070/071

2014/04/27

### 祝 辞

親愛なる 谷口 安孝 様

私は、あなたと貴会の全ての会員にあなたの会長選任に対しご挨拶を申し上げますこと大変うれしくかつ光栄に感じております。どうかネパール徳島(日本)友好協会と私自身からの深甚なるお祝いをお受けいただきたく存じます。

同時に私は、私達二つの協会の関係が今後ますます強まっていくことを確信しております。

私達は、これまで徳島ネパール友好協会からいただいたご支援に対し大変感謝しており、今後ともこの感謝の気持ちは変わることはありません。

私は、前会長杜和彦様に彼が会長在任中になされた偉大なご支援に対し心から感謝申し上げます。

そして私は、私達の絆はさらに強化され多くの人に語り継がれる前例となることを確信しております。

私達は、あなたがあなたの在任中に貴協会をさらに大きな成功に導かれるであろうことを確信しております。ここに私は、改めてもう一度あなたの会長就任に対しお祝いを申し上げます次第です。

ネパール徳島(日本)友好協会  
会長 ビシュヌ・ゴパル・シュレスタ

右文書の日本語訳です。



**Nepal-Tokushima (Japan) Friendship Association**  
**नेपाल-तोकुसिमा (जापान) मैत्री संघ**

Rf.N.16/2070/071

Date: 27<sup>th</sup> April, 2014

Mr. Yasutaka Taniguchi

President

Tokushima Nepal Friendship Association

Tokushima

**Subject: Congratulation**

Dear Mr. Yasutaka Taniguchi,

I am very pleased and honoured to be sending this greeting to you and your entire Association members for being unanimous elected in the respective portfolios. Please kindly accept my humble congratulation on behalf of NT(J)FA and myself.

At the same time, I am confident that the relationship between our two Associations will grow even more in the days to come, and we are and will always be very thankful and grateful for the supports that we have received from Tokushima Nepal Friendship Association.

I sincerely would like to thank Mr. Kazuhiko Mori, the former President for the great support that he bestowed during his tenure, and I am confident our relation will also grow and will become a great example .

We are confident that you will lead your association into more grand successes during your tenure. Here, I would like to once again CONGRATULATE you for the prestigious position of President (TNFA).

With Warmest Regards

Bishnu Gopal Shrestha

President

Nepal Tokushima(Japan) Friendship Association.

## 「ホームステイ事業」の実施について

2006年11月より8年ぶりとなるホームステイ事業を実施することとし準備を進めています。現時点での計画概要をお知らせします。

なお、学生達を泊め、お世話いただく「ホスト・ファミリー」や、徳島での体験活動を支援する「サポーター」の方を募集してしますのでよろしくお願ひします。

### 2014年 ネパール少年少女徳島ホームステイ開催計画（案）

#### 1 目 的

ネパールの子供達が、生活・社会習慣の異なる日本において、自然や文化、産業などに触れ、視野を広げるとともに、会員等との交流を通じ、徳島との友好を深めることができるよう支援を行うとともに、一連の行事の運営を通じて、会員相互の交流を深め、さらには協会の活動を広くPRすることにより、徳島とネパールとの交流を一層深める。

#### 2 開催日程 2014年11月5日（水）から12日（水）まで

#### 3 ネパールからの訪徳者

No.	役 職	氏 名	性別	年齢	所 属 / 学 校 名
1	団 長	ラジェッシュ・シュレスタ	男	48歳	ネパール徳島（日本）友好協会 書記長
2	副 団 長	ラグナス・バスネット	男	54歳	〃 役員
3	随 行 員	プシャ・シャヒ	女	25歳	〃 事務局員
4	通訳兼ガイド	ラジェッシュ・ダンゴール	男	42歳	〃 理 事
1	学 生	ディパンクシュ・シン	男	12歳	スバタラ・スクール
2	〃	プラチュシュ・シュレスタ	男	17歳	セント・ザビエル ジャワラケル校
3	〃	アニッシュ・プリ	男	13歳	ロドデンドロン・インターナショナル・ボーディング・スクール
4	〃	スリジェッシュ・プリ	男	13歳	グラデッド・イングリッシュ・ミディアム・スクール
5	〃	イクシャ・ハンクサルンバ	男	12歳	ネパール・ドン・ボスコ・スクール
6	〃	ヤジュ・ゴパル・シュレスタ	男	12歳	セント・ザビエル ゴダウリ校
7	〃	アアギヤ・シュレスタ	女	12歳	ナショナル・クリエイティブ・コー・エディケーショナル・スクール
8	〃	ビギヤ・シュレスタ	女	14歳	ナショナル・クリエイティブ・コー・エディケーショナル・スクール
9	〃	イプシュ・ジョシ	女	15歳	セント・ザビエル ゴダウリ校
10	〃	アシュウイニ・ジョシ	女	12歳	セント・ザビエル ゴダウリ校
11	〃	アンジラ・ラマ	女	14歳	ロドデンドロン・インターナショナル・ボーディング・スクール
12	〃	スネハ・マハラジャン	女	12歳	リトル・エンジェルズ・スクール
13	〃	ネハ・シュレスタ	女	12歳	カトマンズ・バレイ・スクール
14	〃	サンデッシュ・タパ	男	12歳	シュリ・サイニク・アアバシア・マハ・ビディアレイ・フルバリ・スクール(ボカラ)
15	〃	スマリカ・シュレスタ	女	13歳	セント・ザビエル ゴダウリ校
16	〃	アシム・シュレスタ	男	18歳	セント・ザビエル ジャワラケル校
17	〃	ニディ・シュレスタ	女	17歳	セント・ザビエル ジャワラケル校
18	〃	アラティ・タパ	女	16歳	ガンダキ・ボーディング・スクール
19	〃	ジャヤル・ジョシ	男	13歳	セント・ザビエル ゴダウリ校
20	〃	アアクリスタ・サッキヤ	男	13歳	カトマンズ・モデル・ハイヤー・セカンダリー・スクール

#### 4 ホストファミリー

ホストファミリーは、ネパールの少年少女達を自宅に泊め、朝食と夕食を提供するほか、各種行事に向かうバスまでの送迎をお願いします。また、5日目（11月9日）と帰国前の7日目（11月10日）の2日間は、ご家族とともに過ごしていただきます。

#### 5 サポーター

各種行事へ参加し、学生達の案内などサポートします。

#### 6 スケジュール表（関係機関との調整により変更する可能性があります。）

No.	月 日	訪 問 先 及 び 行 事 等	備 考
1	11月5日 (水)	15:40 関西国際空港 着 17:00 借上げバスで徳島へ 20:30 藍住町民体育館にて歓迎会后、各ホストファミリー宅へ	車中で弁当
2	11月6日 (木)	10:00 あすたむランド 13:00 観潮船・渦の道・竜宮の磯	弁当
2	11月7日 (金)	09:30 徳島市立宮井小学校訪問 13:30 しいたけ栽培施設見学・しいたけ狩り 14:30 みかん狩り	給食
4	11月8日 (土)	07:30 大阪・神戸観光へ向け徳島発 10:00 海遊館見学 12:30 なにわ食いしん坊横町 13:15 電車乗車体験（大阪港～弁天町～大阪～元町） 14:00 神戸海洋博物館見学 18:00 徳島着	外食
5	11月9日 (日)	ホストファミリーと過ごす一日	
6	11月10日 (月)	09:50 NHK徳島 見学 11:15 徳島県庁 訪問（副知事対応） 13:00 眉山 14:00 阿波踊り会館 15:30 鳴門金時 収穫体験	県庁食堂
7	11月11日 (火)	ホストファミリーと過ごす一日（買い物など）	
8	11月12日 (水)	09:30 藍住町民体育館にて送別会 10:30 借上バスで関西国際空港へ 14:30 関西国際空港 着 16:50 関西国際空港 発	淡路SAで昼食

※11月5～8日、10日については藍住町民体育館に集合・解散

#### 藍住町民体育館

徳島県板野郡藍住町奥野字矢上前18-1  
電話088-692-1115  
(藍住町役場より道路を挟んで南東側)



## 「2014年度索道技術支援プロジェクト」について

2014年4月19日に開催された総会では、新たな事業として、「徳島索道技術支援協会」の設立と、事業費約60,000千円規模のJICA（国際協力機構）「草の根技術協力事業（地域活性化特別枠）」へのエントリーが提案され、承認されました。

しかし、この事業については、県が事業主体として取り組むことが、前提条件となっており、その後の努力したものの、県の同意を得るには到らず、JICAの指導もあり、内容をネパール人索道技術者育成に絞った、「草の根技術協力事業（草の根協力支援型）」として、6月24日付けで事業提案書をJICAに提出しました。

### 1 事業の概要

今回提案している事業「ネパール国山村地域の農林産物輸送改善のための索道技術支援プロジェクト」は、事業費10,000千円、事業期間3か年で、

- ① ブジュン村及びジリン村で、索道学校を開講し、技術者8名を養成する。
  - ② カトマンズ市で、索道器具の修理等を行える工場を育成し、技術移転する。
  - ③ 講演会、ブジュン索道見学ツアー等を実施し、ネパールでの索道PRを推進する。
- の3つの事業を行い、ネパールの山岳地帯に索道を普及させるとともに、ブジュンをネパール索道技術の拠点として、新たなビジネスチャンスの創出をも目指すものです。

事業は、JICAから協会に委託されて実施することになり、経費は国からの委託金で支出され、自前の資金を準備する必要はありません。

事業の詳細は、正式採択後、JICAとの協議の中で決定されます。

### 2 事業のスケジュール（予定）

- 2014年11月～ ベースライン調査（ネパール側との打ち合わせ等）  
12月～ 研修生、育成対象工場の選定、研修カリキュラムの決定
- 2015年12月～ 基礎研修、工場指導、ブジュン索道ツアー
- 2016年2月～ 研修生の日本招聘（日本国内での研修）
- 2016年12月 応用研修、工場指導、ネパール索道シンポジウム（カトマンズ）

### 3 採択の結果

今回のJICA事業は、残念ながら不採択となりましたが、その目的や意義については一定の評価を得ております。次回申請期限の12月まで、さらに内容を精査の上、採択へ向けて尽力して参ります。

#### 草の根技術協力事業（地域活性化特別枠）

地方自治体や大学、企業等が有する技術・経験を活用してこれらの機関が開発途上地域に貢献することを支援すると共に、開発途上国の様々な需要・ニーズを日本各地のリソースと積極的に結びつけ、国際化を支援することによって、地域の活性化を促進することを期待。

本制度は、地方自治体が地域経済団体や大学と共同で行う事業も提案可能であるが、手続き上、草の根技術協力（地域提案型）と同様に地方自治体から最寄りの国内機関に事業提案表を提出。

#### 草の根技術協力事業（草の根協力支援型）

国内での活動実績はあるものの、開発途上国への支援実績が少ないNGO等の団体が実施したいと考えられている国際協力活動を、JICAが支援するもの。「こんな分野で活動したい」というアイデアの段階からJICAが相談に応じ、対象国のJICA在外事務所等からの情報も参考にしながら、共同で事業を作り上げていく。

## ネパール訪問（トレッキング）計画について

徳島ネパール友好協会では、これまで我々が培ったブジュンの人々との交流を一層深め広めていくため、次のとおりブジュン村を起点としたトレッキングを計画しています。

### 1 コースの概要

アンナプルナ山群の東端に位置するブジュン村から北に延びるシャクナゲの群生する尾根を、東方にマナスル(8,163m)山群を眺めつつ登り、ラムジュン Lumjung Himal (6,931m)の麓に至る中級のトレッキング・コースです。

人家が一切ないため、ガイドのほか、コックやポーターの方々も同行したテント泊となります。日本国内のみならず、海外でもあまり紹介されていないコースです。

初冬の時期ですが、ネパールは奄美大島と同じ緯度のため、朝方霜が降りることはありますが、雪が降ることはまれで、日中は半袖で歩くことが可能です。

### 2 日程（10日間 うちトレッキング5泊6日）

- |   |           |  |                   |                  |
|---|-----------|--|-------------------|------------------|
| ① | 11月29日(土) | 徳島～関空14:00-CZ2390-17:15広州19:10-CZ3067-22:10カトマンズ | ホテル泊              |                  |
| ② | 11月30日(日) | カトマンズ滞在  | トレッキング会社との打合せ及び観光 | ホテル泊             |
| ③ | 12月1日(月)  | カトマンズ=(6:00)=ベシサハール=(3:00)=…ブジュン村                | ロッジ泊              |                  |
| ④ | 12月2日(火)  | ブジュン村(1,600m)…(6:00)…テルブルグ尾根の麓(2,800m)           | テント泊              |                  |
| ⑤ | 12月3日(水)  | …(3:00)…テルブルグ尾根(3,300m)                          | テント泊              |                  |
| ⑥ | 12月4日(木)  | …(3:00)…テルブルグ尾根(4,000m)…(4:00)…麓(2,800m)         | テント泊              |                  |
| ⑦ | 12月5日(金)  | …(4:00)…ブジュン村                                    | (徳島の日記念行事)        | ロッジ泊             |
| ⑧ | 12月6日(土)  | ブジュン村…=(3:00)=ベシサハール=(6:00)=カトマンズ                | ホテル泊              |                  |
| ⑨ | 12月7日(日)  | カトマンズ  | マウンテンフライト・観光      | 23:15-CZ3068 機中泊 |
| ⑩ | 12月8日(月)  | -5:45 広州 8:30-CZ389-13:00 関空                     | ～ 徳島              |                  |



テルブルグ尾根より、マナスル3山を望む



雲上の夕日に輝くマナスル3山

### 3 経費等

参加人数にもよりますが、概ね25万円程度の見込みです。

### 4 問い合わせ先

- ① リーダー  
早田健治 TEL: 090-4978-6616 E-mail: c5752@indigo.plala.or.jp
- ② 相談窓口  
谷口安孝 TEL: 090-7574-7628 E-mail: stnbjedatud@me.pikara.ne.jp

## ブジュン村新営 20Kw 小型水力発電施設

### A. はじめに

Annapurna Conservation Area Project (ACAP) アンナプルナ地域自然保護計画は、7000平方Kmもおよぶ地域の自然保護を目的とした自然保護活動である。King Mahendra Trust for Nature Conservation (KMTNC)、マヘンドラ国王（故人）が提唱し、Nepal Trust for Nature Conservation (NTNC) ネパール国内の自然保護活動の最重要課題でもある。なかでもGurung tribeグルン族が主として住んでいるBhujung villageブジュン村は、Annapurna Conservation Area Project (ACAP) アンナプルナ地域自然保護計画の中心に位置づけられている。その保護計画の一つとしてACAPは、ブジュン村にMicro-Hydro Project (MHP) 小型水力発電所を設置し、村全体の電化計画を推進している。この小型発電所設置計画にあたり、徳島ネパール友好協会 (TONFA) も計画段階から参加し、ACAPや村人達と一緒に80Kw小型水力発電所を2000年に完成させた。この計画によって完成した小型水力発電所は現在においても順調に稼働し、燃料となる薪の使用量も減少すると共に、村人の生活環境の向上にも寄与している。



さらに、徳島ネパール友好協会 (TONFA) は2005年にブジュン村にRopeway (索道) を設置した。この索道が完成した結果、村から約1100m、垂直距離で400mほど離れた田畑まで、従来は人力で運んでいた物資が機械運搬に取って代わり村民の労力は一段と軽減された。この索道の動力源としては、80Kwの小型水力発電所で発生した電気を利用している。ブジュン村の田畑は、村から遠く離れた場所に点在している。このために徳島ネパール友好協会 (TONFA) はRopeway (索道) を新たに2基設置することを計画し、これらの計画に資金および技術面で支援を行うことになった。

現在も稼働しているMicro-Hydro Project (MHP) 小型水力発電所は、パイプラインの老朽化と取水量の減少に伴い発電能力が60Kwまでに低下している。しかも、村人達の生活が向上した為に、電気の需用量に発電能力が追いつかないのが実情である。現状は、発電量が限られているために仕方なく使用量を制限している。

したがって3基のRopeway (索道) が完成すればその価値は大いにあるものの、その反面電気の使用量は更に増えることになり、家庭や他の生産用途 (工場等) での使用者と電気使用量をめぐって競合するおそれが懸念される。そこで、徳島ネパール友好協会 (TONFA) は、新たに20kwのMicro-Hydro Project (MHP) 小型水力発電所を新設することにおいて支援することを決定した。



## B. 電気の需要と用途

ブジュン村のMicro-Hydro Project (MHP) 小型水力発電所は約400件の家々に電気を供給している。供給先はNhujung village ヒュンジュン村のほとんどの家庭と、Midim Kholaの向かい側に位置するKamagaonの一部を含んでいる。

各家庭では主として下記のような用途で使用されている。

- (a) 照明。(全ての家庭で主に使われ、光源としては蛍光灯とチューブランプが多い) その他にテレビ。
- (b) 調理および湯沸かしとして全家庭のおよそ30%で使用されている。

これには、特別に作られた低容量(ワット数の低い)調理道具が使われている。また電力使用量の少ない時間帯を利用して精米、製茶なども行われている。

- (c) 自家製のパン作り、および製粉。(各家庭に1台程度使用)
- (d) 電動機を動力とした製粉機の電源
- (e) 索道の動力としての電源供給(現在3基目)

これらを各家庭で使用することで、薪の使用量が減少するとともに屋内での煙の発生も少なくなった。

(左の写真) Micro-Hydro Project (MHP) 小型水力発電所から供給される電気を動力として、脱穀機や製粉機が使える、その結果多くの時間を節約することが出来、生産性の向上と共に時間を有効に使えるようになった。

(右の写真) 社会、健康、自然保護、等の啓蒙活動として視聴覚機材を用いた教育がおこなわれている。この活動は、村民達の教育についての意識の向上および普及にも役立っている。

## C. 新設されたブジュン村の小型水力発電所

既存の80Kw水力発電所は、水漏れや水中に沈殿した砂利、老朽化した水路などの問題により、現時点での最大出力は60Kwが限度である。索道の新設、村内での電気需要の高まり等により電気使用量は今後増え続けることが予想される。一般的に需要の少ない昼間においても比較的の高い負荷がかかっている。このことは、索道が使用される時間帯と重なり合い、特に索道は始動時に一時的に高負荷運転となる。運転記録によると毎日の最大負荷は夜間に発生し、その負荷合計は55Kw~60Kwとされている。しかもこの値は使用制限をかけての結果であり、このままでいくといつかは発電機自体が過負荷運転となりうる。このために村人から電力供給システムの改善が強く求められるようになった。改善することにより、今後に新設される2基の索道への電力供給、更なる村内での電気需要にも対応する事が出来る。

徳島ネパール友好協会(TONFA)は既存発電所を改修することを協議し、その費用として国際ボランティア貯金からの寄付金を充てることにした。また、発電能力の増強するに当たり、徳島ネパール友好協会(TONFA)は現地調査を実施し、次の二つの案を提示した。

- (a) 既存発電所を改修する。

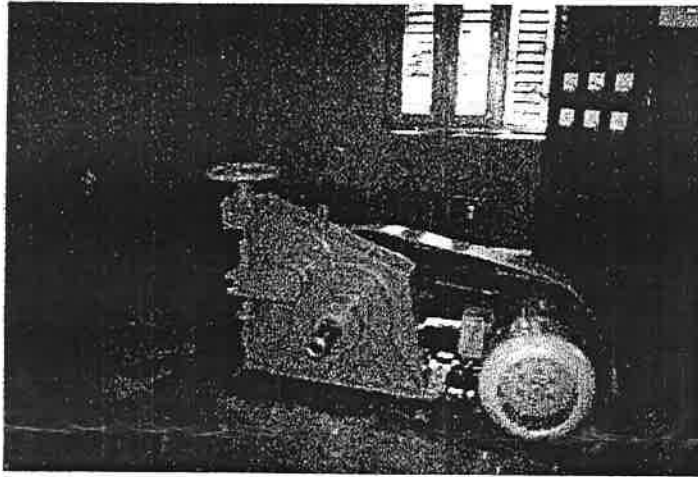
施設全体が老朽化しているために定かではないが、少なくとも10Kw、最大で20Kw程度の発電量の増加が期待できる。

- (b) 小型水力発電所を新設する。

既存発電所の水路に併設し、発電所建家も既存施設の近くに建設する。こうすることにより既存システムと整合性がとれ、施設が分散することがないので、同一作業員が運転管理を行う事が出来る。

上記2案について協議の結果、(b)を採用することになった。

徳島ネパール友好協会 (TONFA) は2010年9月にEnergy Development Services P. Ltd. とブジュン村に20Kwの小型水力発電所新設に関する契約書に署名した。この発電所は2011年3月に完成し、正常に運転している。Generating equipment (発電に必要な設備機器)



導水管路

通気管 Penstock vent pipe  
 余水放流管吸込室  
 Spillway conduit inlet chamber  
 導水管路内洗浄用給水管路  
 Flushing mechanism with pipe that can be lifted  
 to cause flushing  
 水路吸込室  
 Penstock inlet chamber  
 導水管入り口部  
 Forebay



### E. 20Kwの小型水力発電所の建設概要

この計画 (ブジュン村に20Kwの小型水力発電所新設) に関する契約が徳島ネパール友好協会 (TONFA) とEnergy Development Services P. Ltd. (EDS) との間で2010年9月に署名された。小型水力発電所 (MHS) の新設は索道計画の内の電源確保として計画されたものであり、そのために村の役割と責任分担は索道建設の場合と同一内容となっている。契約締結後、Energy Development Services P. Ltd. (EDS) によって村内で集会が開催された。目的は、小型水力発電所 (MHS) の新設に際し、計画の趣旨、概要、を伝えるものであり、同時に建設計画 (工程等) と完成後の運営管理の周知と同意を得るためである。村側から建設に際し、資機材の運搬等建設労働者を提供する旨の申し出があった。また、今後の保守点検に関わる技術者を養成するために、村人の中から数名を選任してもらい、徳島ネパール友好協会 (TONFA) から派遣した経験のある技術者の補佐として従事して貰うことにした。この小型水力発電所 (MHS) を建設することにあたり、村人の努力と協力の結果、工程通り期日までに完成させることが出来た。2基目の索道が2011年3月に完成するに合わせて、小型水力発電所 (MHS) の試運転も終わり新設索道に電源を供給することが出来た。

《注》、当完成報告書は当建設工事をお願いした、エネルギー・デベロップメント・サービス社社長のシャンカール・ラル・バイディア氏からいただいたものです。当会報には、その一部分しか掲載されていません。詳しくは当協会ホームページ (事業紹介欄) を御覧下さい。

## 2011・索道完成式典終了後、村人への発電所・索道インタビュー結果報告

### 1) サンタ・ラル・パリヤル (38歳) 男性

- ① 2009年に1本でき、畑のワンエリアのみが運ばれていたが、この度2本完成、合計3本となり、No.2索道の遠い畑も含む、全てのエリアから運べるようになり心から喜んでいる。
- ② 私は商売(事業)をしているが、これまで電気が不足していたのでやりたい事が出来なかったが、今回電気が増えたのでマシン作業や家具作りなどが充分出来るようになり嬉しいです。
- ③ 徳島のみなさん、ありがとう

### 2) ボド・バハドール・グルン (26歳) 男性

- ① 最初、発電所ができて村が明るくなった。それまでは家での宿題はランプの明かりでしていたので、鼻の中はすすで真っ黒になっていた。
- ② ブジュンは1年間働いて6ヶ月食べるものしか取れない貧しい村です。また、最近年寄りが増えて畑から運ぶ事が益々大変になっています。今回、3本の索道が出来たことにより、今よりもっと多くのものが取れる事を期待している。
- ③ 村を訪れる外国人など多くの人々は、発電所や索道をみて、こんな奥深い村にこのような素晴らしいものがあるのかと驚き、ほめている。今ではブジュンは観光ルートになっている。

### 3) ギル・バハドール・グルン (16歳) 男性

- ① 私が4歳の時電気がきたが、私より少し大きかった友達が「デンキがきた!、デンキがきた!」と喜んであっちこっち走り回っていたので、私も走り回った事を覚えている。また、電気がなかった事はほとんど知らない。
- ② 私は、大人と同じように畑からものを運んでいるが、索道ができ、これからは運ばなくてもよくなり嬉しい。
- ③ 索道を使っている人は大事に使ってほしい。徳島から頂いたものなので私達若い者も大人になればいつまでも使えるよう大切に使いたいと思っている。

### 4) ガンビル・グルン (36歳) 男性 索道オペレーター

- ① この1年間索道を運転してきたが、車(ブジュン村には無い)の運転経験があったのでそれ程難しくなかった。非常に大事に使ってきた。今では友達にもその技術を教えている。
- ② 2009年に1本でき、とっても嬉しかった。更に今回2本でき、電気も増えみんな喜んでいる
- ③ No.1索道(2009年分)の使用料を最初は片道60ルピー(約70円)としていたが、2人のオペレーターに支払うサラリーが不足し、また部品の交換などもあったので、今では80ルピーにしている  
また、新しくできたNo.3索道は、100ルピーに決めている。更に、No.2索道は遠い畑から運ぶ時は100ルピー、手前の近い畑からは80ルピーと決めている。これでオペレーターに支払うサラリーも問題ないと思っている。
- ④ 村の助けを得て人がマシンやワイヤーに近づけないように、カバーや柵を作り安全を期しているが、No.2、No.3も同じようにする。また村内各地区が輪番にマシン周辺に勤め、安全監視に当たる。人は絶対に乗せないことにしている。

- ⑤ 索道が出来るまでは、どのような遠くからでも人の力で運ばなくてはならなかったが、今では索道に乗せる所まで運べばよい (No.1、2はワイヤー下まで運べば吊り上げてくれる)  
これまでの経験から言えば3本の索道が完成したので、3エリアの畑で取れる農産物の90%~95%とは運べるようになった。後の5%~10%は貧しくてお金が払えない、使いたいが使えない人がいるためです。

5) ホーム・スリ・グルン (53歳) 女性

- ① 村全体が明るくなった。  
② これまでは自分が運んでいたが、今は索道が運んでくれて助かる。

6) ツルシ・マヤ・グルン (30歳) 女性

- ① 索道ができ、運ばなくても良くなり嬉しいです。  
② 電気が増えて村が明るくなった。

7) バル・クマリ・グルン (70歳) 女性

- ① 電気が来てよかった。電気が増えてよかった。3本の索道ができ村のみんなが運ばなくてもよくなりよかった (これを何度も何度も、繰り返し、繰り返し言っていた)  
② 時々電気が弱くなっていたが、今回電気が増えたのでそれが無くなった。昔、電気がない時は暗い所でも見えていたが、電気が来てからは暗い所では何も見えなくなってしまった (笑い)  
③ 昔はしたい事あっても暗くて出来ず、夜の食事が済めば寝ていたが、今は家の中でいくらでも仕事出来るようになって嬉しい。

(注) 1・女性は多くの方が恥ずかしがって話してくれませんでした。

2. 「索道」を「ロープウェイ」と読み替えていただいて結構です。インタビューでは「ロープウェイ」と発言。

2011年3月14日インタビュー 天野 親聡

## मेरो भनाई (My opinion)

TONFA को पहलमा हागीलाई जापान लगाउन सहयोग गर्नु हुने सम्पूर्ण  
व्यक्तिहरूलाई धेरै धेरै धन्यवाद साथै हागीलाई सहज स्वीकार गरी  
आफ्नो सम्पत्ति, तालिम सहित मात्र किने श्री टुकिहिनो साइजुजी  
र उहाँका सम्पूर्ण परिवारलाई हृदय देखी धन्यवाद दिन चाहन्छौं।  
विगत २ महिना देखी हागी यात्रा/भ्रमणको सम्पत्ति मात्र  
सम्बन्धी मात्र गर्दै आएका छौं। सुझाव किता मात्रा उहाँ  
उठिनाई गरे पनि हाल सबैको सहयोग र साथले मात्रा  
सुधार आएको महसुस गरेका छौं। मोल्डो किता अर्थात्  
महिनतका साथ मात्र गरी राम्रो प्रभाव डोडी यो डोसिमा  
सियोडा प्रत्येक हप्ति पारमा नेपाली उपहारहरूले तालिम  
सहित मात्र गर्नु अवसर प्रदान गहन। यो डोसिमा सियो रकफ  
रमाहलो र, मगोरम र हृदय हुने वातावरण छ। महाँका प्रत्येक  
मानिसहरू सहयोगी हुनुहुन्छ। धन्यवाद, जय नेपाल।

We wish to Many Many thanks TONFA and all person  
when we will be joining Takara vikin company before  
playing key role. Heartly thanks for Mr. Tushikin,  
Sakaguchi san and his family. He was easily apper-  
ciate your company in this prestigious and working  
day. The first day we feel to trap-in work hard.  
Company president and his family and all the friends  
to co-operate with gradually working here. We feel  
in this time slowly we are adjusting and improv-  
ing in this work. Tokushima city is kind of fun and  
appealing. Tokushima city's almost person are very help  
ful and co-operative. Tomorrow is leaving, we are  
expecting to all tokushima Agriculture farms  
doing Nepali training worker for the whole expres-  
sion. Thank you, Jay Nepal. Shantosh/Indu Khadka

### 私の意見

私たちは、(有)多家良培菌に来るに際して、それ以前から努力をくださった徳島ネパール友好協会及び関係各位に対し、多くの感謝をいたします。また、受け入れてくださった坂口さん御一家に対し、心より感謝申し上げます。

作業初日にこれからキツイ仕事の日々になるぞと感じましたが、社長を始め御家族の方々や、作業仲間達は協力的で、私たちも仕事に慣れてきています。私たちは、しだいと改善し、調整をしながら仕事に対応しています。

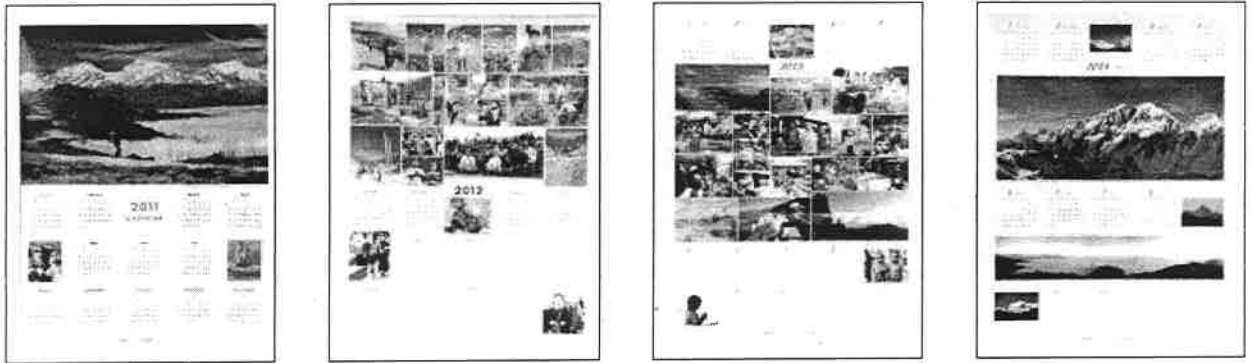
徳島市は、楽しく、魅力的です。また、人々はすべからく、援助的で、協力的です。

将来には、ネパールの研修労働者が全徳島の農園で仕事をしていることを期待しています。

ありがとう カッカ・インドウ・サントス

## 「カレンダーの作成」について

協会では2010年（2011年版）以降、毎年協会の皆様の写真をもとに次のとおりカレンダーを作成し、有償で配布してきました。



2015年版については、新たな取り組みとして、ブジュン村の子供達の描いた絵やイラストをもとに作成することとし、次のとおりネパール側に依頼しているところです。

- ① サイズA4で、鉛筆、絵の具その他何を使って描いても良い。
  - ② 題材は、山、植物、動物、人物、家等の写生。
  - ③ 画面下に作者の署名を入れること。
  - ④ ブジュン村の学生（6～12歳）に描いてもらえるよう、村から学校へ依頼してもらう。
  - ⑤ 20枚を先生に選んでもらって、郵送してもらう。日本着9月末。
  - ⑥ 採用する絵は最大5～6枚で、採用なしの場合もある。
  - ⑦ 学校に残った絵は、村を訪問したときに見せてもらう。
  - ⑧ 採用した作者に謝礼をしないが、学校には画材などを寄贈する。
- こういった形でカレンダーにできるかご期待ください。

（追伸：ブジュンからビシュヌさんのところへ30枚ほどの絵が届いたとのことです。）

### 編集後記

久しぶりの機関誌の発行となり、これまで会員の皆さんにお伝えできてなかった少々古い記事などありますが、ご高覧いただければ幸いです。

○ 事務局よりお願い：会費未納の方または御寄付いただける方は次の口座にお振り込みくださいますようお願いいたします。

（銀行振替）阿波銀行 石井支店 （普）1009369 徳島ネパール友好協会  
（郵便振替）石井郵便局 01600-2-52742 徳島ネパール友好協会

## 徳島ネパール友好協会

Tokushima Nepal Friendship Association

〒779-3211

住所：徳島県名西郡石井町藍畑西覚円718-5

電話：088-675-0835 ファクシミリ：088-674-4168

ホームページ <http://www.tokushima-nepal.jp/>

電子メール [info@tokushima-nepal.jp](mailto:info@tokushima-nepal.jp)